

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K14214

研究課題名（和文）心的トラウマ有するTBI患者に対する心理的回復スキル向上プログラムの有効性の検証

研究課題名（英文）Efficacy of a Psychological Recovery Skills Improvement Program for Psychologically Traumatized TBI Patients

研究代表者

八木橋 真央（Yagihashi, Mao）

大阪大学・感染症総合教育研究拠点・特任助教（常勤）

研究者番号：80801927

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果を記載する。まず、オーストラリアメルボルン大学の研究者と連携し、元々災害後の心的回復を促すためのプログラムであるThe Skills for Life Adjustment and Resilience Program (SOLAR)を、新型コロナウイルスに特化した日本語版とし、国内で実施した。次に、学官連携として、大阪府泉大津市とパートナーシップを組み、頭部外傷（TBI）のみならず、新型コロナウイルス後遺症事業として、広く対象者を募り、実施した。また、新型コロナウイルス感染症流行下における心理療法について、スコopingレビューを行い、学会発表と論文化を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

心理療法は、受け手である市民にとって、アクセスし難いものとなっている。しかしながら、事故、災害や感染症等においては、その社会的ニーズの大きさから、アクセスし易いものでなければ、支援を必要としている市民に届かない。本研究では、そういった災害精神医学の世界的トレンドとニーズを踏まえ、新型コロナウイルス感染症後の心理的回復支援に焦点を合わせ、非専門家でも施行可能な心理支援（The Skills for Life Adjustment and Resilience Program: SOLAR）を我が国にて行った。また、行政と連携し、広く市民から参加者を募り、その心理支援を行った。

研究成果の概要（英文）：The results of this study are described. First, in collaboration with researchers at the University of Melbourne, Australia, the Skills for Life Adjustment and Resilience Program (SOLAR), a program originally designed to promote psychological recovery after a disaster, was adapted into a Japanese version specific to the novel coronavirus and implemented in Japan. The program has been implemented in Japan. Next, as an academic-government collaboration, a partnership was formed with Izumiotsu City, Osaka Prefecture, to consider implementing not only head trauma (TBI), but also a project for post-traumatic stress response of the new coronavirus, with a wide range of subjects to be recruited. While increasing the number of intervention cases, we also conducted a scoping review of psychotherapy in a novel coronavirus infection epidemic and presented the results at a conference. The paper has already been submitted for preprint and is currently under review in a journal.

研究分野：臨床心理学

キーワード：災害 心理支援 実行可能性

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

【救急医療現場では精神疾患の診断がつかないためにリエゾン精神医療の対象とはならないが、心的トラウマ症状を有するために社会適応が妨げられている患者が存在しており、このような症状に対する効果の実証された回復支援プログラムは存在していない】

欧米では、頭部外傷(Traumatic Brain Injury: TBI) 受傷者の 40-50%において、重症併せて何らかの精神症状(抑うつ、不安、心的外傷後ストレス(PTS)症状)が報告されている(Tanev, 2014)。本邦でも、TBI後の精神症状は一定数認められ、その症状の程度は、専門家による薬物治療や重点的心理療法を必要としないレベルではあるが、それら症状が患者の退院後の社会適応を妨げていることを、申請者は、精神科リエゾン・心理師の立場から多数学会報告を行っており(八木橋ら, 2017 & 2018; 佐久間ら, 2018)。その論文化を進めている(八木橋ら, 2019, under submission)。TBI後、数%である重症患者に対しては、精神科に紹介する等の方法が取られ、適切に治療されるものの、症状重症化リスクが高く社会復帰につまずくも未疾患レベルの患者全てを精神科リエゾンが介入することは現実的に不可能である。つまりこれら未疾患レベルのTBI患者に対する、非精神医療専門家による精神症状マネジメント法という臨床ニーズが存在するが、国内外において十分な効果が証明された方法は未だない。

【頭部外傷等のトラウマ体験後の心理的支援は患者の精神症状経過と重症度に応じて3段階に分けられる】災害後やTBI後の精神症状は、多くの患者においては数ヶ月以内に自然回復するが、一部は、慢性・重症化し、生活機能に深刻な影響をもたらす(Scholten et al, 2016; Greenspan et al, 2006)。心理支援は、症状の経過と重症度に応じて行われることが重要であり、概ね3段階(レベル1, 2, 3)に即した心理的支援アプローチが推奨されている(Forbes et al, 2012)。

【精神疾患の診断基準を満たさないが軽度の心的トラウマ症状を有し、社会適応が妨げられている頭部外傷患者に対する、心理的回復のための効果が実証されたプログラムは国際的にも存在していない】この内、レベル2(トラウマ体験による症状が慢性・重症化するリスクの高い個人に対するアプローチであり、回復を妨げる症状(不安、緊張、不眠等)を緩和し、心理・社会的適応を高めることを目的とした介入)とレベル3(PTSD等の精神障害を発症した人々に向けた精神医療の専門家による治療)は、症状、疾患の軽減や治療を目的とした介入であるため、その効果を検証することが不可欠である。レベル3については、認知行動療法等、多くの検証が行われているが、レベル2については、プログラム自体はWHOによるProblem Management Plus (PM+)、米国によるSkills for Psychological Recovery (SPR)等があり、日本でも翻訳版が完成しているが、その有効性の検証が十分でなく、国際的に殆ど活用されていない。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、上述の背景から、当初、頭部外傷(Traumatic Brain Injury: TBI)患者に見られる心的トラウマ症状に対し、症状軽減のためのプログラム(SOLAR)の効果検証を世界で初めて実施し、その成果に基づいて、救急医療の現場において同プログラムを実施、普及のための手引書を作成し、このような症状を有するTBI患者の社会適応を促進することであった。研究期間中、申請者の大学間移動や、新型コロナウイルス感染症流行という環境要因から、研究参加者を、TBI患者から、新型コロナウイルス感染症後に心理的苦痛が残存する人とし、その心理的回復を支援し、社会適応を促進することとした。以下に記載する研究報告は対象変更後のものを記載する。

### 3. 研究の方法

#### 【対象】

大阪府泉大津市民、もしくは、ふるさと納税サイトを経由し、同市のコロナ後遺症事業に賛同し寄付を行った方から、本人の同意とスクリーニング検査によって本研究への参加が適切と判断された15名(新型コロナウイルス罹患後)に加えて若干名(ワクチン後遺症)。

包含基準：新型コロナウイルス感染症からの回復後、精神科や心療内科等医療機関に通うほどではないが(精神症状は軽度から中程度であり健常者であるが所謂未病の者であり健常者の枠組みを出ない)元の生活に戻ることに困難を抱えている者、約15名(18歳以上65歳未満)。加えて、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種後、心理的苦痛が残存している者、若干名(18歳以上、65歳未満)。

除外基準：過去・現在の症状が精神疾患の診断基準を満たしている場合(The Mini-International Neuropsychiatric Interview (以下、M.I.N.I.)を使用し、スクリーニングを実施する)。また、全5回のSOLARプログラムに何かしらの理由でコミットできない者。

#### 【介入デザイン】

・全てオンラインで実施する。

・デザインは、M.I.N.I.によるスクリーニング検査を行った後、介入対象となれば、SOLARプログラムによる本介入(全5回; 1週間に1回1時間)そして6か月後のフォローアップと進ん

でいく。介入の前後と6か月後のフォローアップ時には、質問票調査を実施する。また、介入の前後のみで簡易脳波計における脳波測定を実施する（後述の【評価項目】参照のこと）

- ・スクリーニング検査(M.I.N.I.)で、精神科受診が必要と判断された方については、適切に医療機関に紹介する。
- ・質問票調査は、オンラインサーベイシステム(QualtricsXM)を使用し、SOLARによる介入前後と6か月後のフォローアップ時に調査を実施する。なお、オンライン上に氏名の記載等個人を特定できるものは入力しない。
- ・スクリーニング検査ならびに介入(SOLARプログラムの実施と6か月後のフォローアップ面談)ではweb会議サービス(Zoom)を使用する。心理的な急変の際に気づけるよう、またラポール形成とプログラムへのコミットメントの観点から、画面オンを基本とし、実施する。但し、参加者がこれを拒否した場合、または、健康上の理由により、途中で申し入れた場合は、画面オフで行う。また、セッションの振り返りを可能にし、次のセッションに活かすため、また質的検証を可能にするため、セッションはすべて録画する。但し、研究には、音声のみを使用し、画像は速やかに破棄する。
- ・介入プログラムはThe Skills for Life Adjustment and Resilience Program (SOLAR)を使用する。これは、精神医療の枠組みとしては健常者を対象としており、レジリエンスを高め、日常生活を取り戻すことに重点が置かれている。SOLARは、メルボルン大学精神科教授 Meaghan O' Donnell が開発し、現在世界的にオープンテストを行っており(O' Donnell et al, Front. Psychiatry, 2020) 日本においては、NCNP 精神保健研究所 所長金吉晴を中心としたグループが、日本語版を既に作成している。尚、本研究は、これら日豪の研究グループの協力をもって行うものである。

#### 【評価項目】

・質問票調査：Kessler Psychological Distress Scale (K6; 抑うつ・不安症状)、PTSD Checklist-5 (PCL-5; 心的外傷反応)、Patient Health Questionnaire-9 (PHQ-9; 抑うつ)、Psychological Outcome Profiles (PSYCHOLOPS; QOLと精神健康評価)

SOLAR介入の前後と6か月後で評価

・脳波測定：簡易脳波測定器(二点電極のもの。住友ファーマからの無償貸与であり、貸与契約を取り交わした上で貸与を受ける)での測定であり、自宅で測定可能である。脳波の測定自体は非侵襲的かつ安全であり、今後精神医学領域で診断/補助マーカーになりうる可能性が示唆されている。本研究では、リラックス状態の指標と言われている波帯域の相対パワー値の変化をSOLAR試行の前後で測定し、精神的安静度が客観的にも向上していることを確認する。

SOLAR介入の前後のみで評価

・質的評価項目：セッション中に録音した音源に関して秘密保持契約を結んでいる専門業者(株式会社IPパートナーズ)に文字起こしを委託し、新型コロナウイルス感染症後の心理的苦痛の詳細について質的に明らかにする。

#### 4. 研究成果

臨床介入としては、泉大津市新型コロナウイルス感染症後遺症外来を行っている医師から紹介を受け、1名に対して介入を行った。また、臨床介入例を増やしている間の派生研究(介入研究の論文化にも関係する)として、Scoping reviewを実施し、学会発表並びに論文化、市民公開講座等で研究活動の社会的周知を行った。

#### [プレプリント]

**Mao Yagihashi**, Atsushi Sakuma, Michio Murakami. Psychotherapies and Psychological Support for Individuals Facing Psychological Distress during the COVID-19 Pandemic: A Scoping Review.

medRxiv 2023.09.04.23295013; doi: <https://doi.org/10.1101/2023.09.04.23295013>

(プレプリント掲載と同様の内容の論文について、現在学術誌にて査読中)

#### [学会発表]

**八木橋真央**、大滝涼子、佐久間篤、村上道夫、新型コロナウイルス感染症流行下における心理支援 - A Scoping Review, 第41回日本社会精神医学会ポスター発表, 神戸, 2023.03.16-17.

#### [市民公開講座]

**八木橋真央**, 佐久間篤, Kagshun, 大滝涼子. SpringX 超学校 CiDER(大阪大学感染症総合教育研究拠点)×ナレッジキャピタル正しく学ぶ! 感染症から「いのち」と「暮らし」を守る講座 season2; 第10回 With コロナとこれからの With メンタルヘルス 第10回 With コロナとこれからの With メンタルヘルス. 2023.01.27; YouTube: <https://youtu.be/TEcwH-IR-38>. (再生回数 2,692 回いいね数 66 (2023年9月5日時点); 2022年度における同シリーズ最多再生回数)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Yagihashi Mao, Sakuma Atsushi, Murakami Michio	4. 巻 -
2. 論文標題 Psychotherapies and Psychological Support for Individuals Facing Psychological Distress during the COVID-19 Pandemic: A Scoping Review	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 medRxiv	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1101/2023.09.04.23295013	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 八木橋真央・大滝涼子・佐久間篤・村上道夫
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症流行下における心理支援 - A Scoping Review
3. 学会等名 第41回日本社会精神医学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------